

あゆみ

『 私たちの目指すもの 』

理事長 森 公夫

元号が平成から令和に変わりました。令和は二百四十八番目（もしくは二百三十一番目）の元号だそうですね。世界の歴史全体を考える際には、キリスト誕生を起源とした西暦が使われますが、日本人にと

っての元号は、この国の歴史や文化を総合的に象徴する意味で、西暦とは違った意味が含まれているように思います。

な事業の発展や拡張はありませんでした。

振り返ってみると、昭和が戦争と戦後復興の歴史であるとするなら、平成は多様な価値観の台頭と、経済優先思考のもとで人々がよりどこを見失い、それに起因するような事故や事件、また自然災害の多発した時代でもありました。突然肉親を奪われた

はじめることが出来たのは、多くの方々のご理解とご協力、そしてあゆみを支える職員一人ひとりの献身があったこと。そしてなにより、それが時代の社会ニーズであり、神様の御旨にかなうものであったからだと思います。

り、労苦の末に築いた田畑や家族の夢を詰め込んだマイホームが、あっという間に破壊される現実を、私たちはどう受け止めれば良いのかと苦しみます。亡くなった方のご冥福と、被害にあわれた方が少しでも早く元の生活に戻れますことをお祈りすることともに、悲しい思いをする人がひとりでもすくない新しい時代が来ることを願います。

さて、先般のラクビー・ワールドカップで日本にもわかファンが急増し、「ワンフォーオールオールフォーワン」はとて有名な言葉になりました。しかしこの言葉の本当の意味は、「一人はみんなのために、みんなは一つの目的（この場合は勝利）のために」だそうですね。ラクビーで戦っている十五人は、それぞれのまったく別の役割を担っています。足の速い人、力の強い人、それぞれが与えられた役割を果たしながら、自己犠牲も厭わず、信頼と協力で勝利を目指すところに「フクビー」の素晴らしさがあります。ただ仲間を思いやるということだけでなく、それをトライに結び付けるためにどう心を拠り合わせるかが問われます。

私たちあゆみ学園にとつての平成は、四十余年の一人一施設という社会福祉事業に、「多機能型事業所あゆみ」と「保育事業」という二つの新しいものが加わった時代でもありました。

私たちもまたこの機会に、自分たちの目的と役割を再確認し、仲間を信頼しあいながら、どんな困難も乗り越えられる強固なスクラムで目の前の課題に挑戦していきたいものだと思います。

あゆみ学園はキリスト信仰の証として、「目の前の困っている人に手を差し伸べる」という思いから始まった事業です。そのことから「ひとりひとりを大切に」ということに重きを置いてきましたので、六十年という長い時間を経ながら、目を見張るよう

に挑戦していききたいものだと思います。



社会福祉法人あゆみ学園

理念

当法人は、障がいのある子どもとその保護者を支援するため、日本基督教（キリスト）教団松山教会の青年によって始められた事業をその礎（いしずえ）とし、キリスト教の愛の精神に基づいた社会福祉事業を行い地域社会に貢献します。

『弱さつながりをつなぎ出す』

松山教会

牧師 上島 一高

松山教会では、昨年度よりJOCSS（キリスト教海外医療協力会）の団体会員となり、以前にも増して、その働きに連帯するようになりました。要請した帰国報告会でワーカーから経験をうかがうのは、かけがえのない機会となっています。この11月には、20年にわたって働く岩本直美さんから聴きました。それはバングラデシュのラルシユ・マイメンシンのコミュニティで16年間知的ハンディある人たちと共に暮らす間、コミュニティと社会に起きた、予想を超えた出来事です。心に

残ったのは以下の二点。①出来事の真の主役は、寄り添う側でなく、単純素朴に愛することを教えてくれる知的ハンディのあるメンバーたちであったこと。彼らの存在が、ワーカーたち、さらに地域の人々の心を変容させたのでした。

②働き手は一人の傷つけられていた魂の扉が開かれるために彼らと共にそこに留まり、喜びと感謝のうちに単純素朴な暮らしを通して恵みを感じていただき続けていること。実際、あるメンバーが13年目に扉を開けたお話しには感動しました。

ラルシユ（方舟）は、ジャン・ヴァニエがフランスに生み出して以来、全世界に輪を広げるコミュニティ。中でもマイメンシンは、知的・身体的・精神的障がいを含め持つメンバーが多く、異なる宗教の人々が共生する点でユニークです。

キリスト教によって始められ、地元イスラム教徒からの全面的支援によって成り立つこのコミュニティは、「弱さつながりをつなぎ出す」現場そのもの。ここで、今日も、人間の思いを超える不思議な業が現われています。

ちなみに、ラルシユ誕生55年。JOCSSは来年で60年。後者は奇しくもあゆみ学園と同じ年です。一人の魂との出会いが十年越しで起きたように、息の長いつながりの中で、これからもそれぞれ

れが、驚きと喜びを生み出すことでしょうか。

ラルシユの来年のカレンダー、その1月に添えられたジャン・ヴァニエの言葉は次の通りです。

力、強みは人々を割いてしまう。一方、弱さ、弱さの承認、そして助けを求める叫びは人々をつなぐ。



『お散歩』

あゆみ学園

管理者

武智 一郎



「園長先生、行ってきまーす。」…玄關の方から元気な声が響きます。パソコン相手に事務仕事と格闘していた私は、はっと気づきます。そっだ、あのクラスは今からお散歩に行くんだ。

毎年、4月に子どもたちを眺めて、私は「この子どもたち、ちゃんとお散歩に行けるようになるかなあ。」と、一抹の不安を覚えます。それほど入園式を終えたばかりの（特に新入の）子どもたちは無邪気でちょこちょこして、頼りない感じなのです。

おまけに最近はこちらと歩道を歩いていても理不尽な事故に巻き込まれる時代です。

それでも、先生方の奮闘のかいあって、子どもたちはどんどんたくましくなり、車にも気を付けて出かけられるようになってきます。年長にもなるこ

片道1キロ以上はある公園へ行って、しっかりと遊んでくれます。そもそも道端に小さな草花が咲いていたら、必ず誰かがお土産に摘み取って、プレゼントしてくれます。

もらった花や草は、園長室のロッカーの上に置かれた小さな瓶に活けられて、結構長い間頑張って背筋を伸ばして咲いていたります。お土産の花は、季節と共にエノコログサやススキになり、冷たい風が吹くころには、草花のお土産もおしまいです。そして子供たちはひと時の冷たい冬を越して、春を迎え、野の花と同じようにそれぞれに新しい芽を吹いて少しずつ成長していくのです。

毎年のこんなささやかな繰り返しも、やがて実を結ぶ時がやってくる。そんなことをいつも思いながら、出かける子どもたちの背中を見送っています。



『仲良く・楽しく・優しく』

多機能型事業所あゆみ

管理者

喜安 勝也

ご利用者の人生を就学前・学校への就学・卒業後の三つに分けるとすれば、卒業後が通常一番長くなります。

現在、当施設では、生活介護及び就労継続支援B型の二事業に、二十歳から六十八歳までの計四十名の方が利用され、この卒業後の人生に関わらせていただいています。その中で、私たち職員が目指しているゴール（目標）は、「ご利用者に質の高い支援・サービスを提供し、皆様から信頼され、愛され、生活を豊かにするアットホームなあゆみ」です。質の高い支援・サービスとは、ご利用者の人生を豊かに幸せにするために、ニーズを理解して、本人・職員・ご家族等との協同作業により課題等を解決しながら実現していく道程、正に「あゆみ」なのです。

中心となる主人公は、ご利用者一人一人です。そのニーズはそれぞれ違います。私たち職員は、本人・保護者や関係者に寄り添いながら適切な把握に努め、個別支援計画を作成し、全職員で共通理解のうえ支援しています。ご利用者を真ん中にして、保護者・職員・地域等を繋ぐキーワードが、「仲良く（協力）、楽しく（笑顔）、優しく（思いやり）」です。

この絆のもとにみんなが一体となり、共に支え合い助け合う共生社会を築いていくことで、ご利用者が幸せになり、加えてご家族・職員・地域等も幸せになっていくのだと思います。

仲良く・楽しく・優しいあゆみ、皆様から信頼され愛されるあゆみとなるように、これからもゴールを目指して頑張っていきます。

『 災害は忘れる前にやっておくべき』
多機能型事業所あゆみ

管理者補佐 渡部 剛

この原稿を書いていると、沖縄の首里城が燃えているというニュースがあり驚きました。同じ世界遺産のノートルダムが燃えた時もビックリしましたが、沖縄のシンボルであり誇りである文化財が全焼したとは、本当に残念です。

昔から「地震雷火事親爺」と言いますが、台風15号、19号に襲われた千葉県の惨状は、8年前の東日本大震災を思い起こさせます。また、千曲川、阿武隈川水系の洪水も前代未聞の災害でしょう。

昨年、愛媛県も豪雨に見舞われ、実家が崖崩れで半壊したため災害に敏感になりました。いつ起こるか分からない東南海地震も要注意ですが、毎年の様に大きな被害をもたらす水害は、ある程度は予測ができるので事前の備えが大切です、万一の時はとくに



かく避難するよう万全を期さなくてはなりません。

となれば、あゆみ学園のすぐ傍を流れる重信川の氾濫、堤防決壊の危険から利用者、職員をどうやって守るかが最重要課題です。大きな堤防を見ると、「これが破れるなんて」と思いがちですが、長時間、多量の濁流に洗われると、堤防の土に水が浸み通り、頑丈に見える堤防がヤワヤワになり、水圧に耐えられなくなって崩れていくそうです。

丁度今、あゆみ学園付近の重信川の堤防は、コンクリートを張って水の浸透を防ぎ、それでも浸み込んだ水を抜くドレーン設置の工事が始まりました。これで一安心、と言いたいところですが、想定外の災害がいつ起こるか誰にも分かりません。19号台風では中小の河川が氾濫して大災害になりました。

普段から災害に対する警戒を怠らず、防災体制を整え、万一の場合は、皆が早期に、安全に避難できるようにしましょう。

『 ちよもたちについて』

絵本や手あそびとは
児童発達支援センターあゆみ学園

保育士 西村 ほのか

あゆみ学園に就職して、3年目になりました。今年はずきぐらで、10人の元気いっぱいな子どもたちと毎日、楽しく過ごしています。ずきぐらの子どもたちは、あそび、うた、手あそび、絵本など、いろいろなことに興味津々！新しいものを取り入れるとすぐに反応し、覚えてくれて、ほくも！わたしも！やりたい！見たい！と目を輝かせてくれ



ます。特に絵本や手あそび、ペープサートは大好きな子が多く、始まることに期待して自分から着席したり、フレーズを覚えていて何気なく口ずさんでくれていると、子どもたちにとって魅力的で、影響力のあるものなんだな、と感じることが多くあります。あつまりで読んでいる絵本やペープサートを自由あそびの場面でお部屋に出しておくのと、子どもたち同士で再現して遊んでくれるほどの人気です。

就職したばかりのころは、子どもたちの前で絵本や手あそびをするとき、反応してくれるかな、見てくれるかな、と不安のなか取り組むこともあったのですが、そんな不安をよそに、子どもたちは一生懸命見てくれたり、真似してくれたり、それぞれの子どもたちなりにいろいろな反応を見せてくれます。そんな子どもたちのおかげで、今では自分にとって、絵本や手あそびは楽しいものになりました。ま

た、これまでたくさん先生の先生方が絵本、手あそび等をする姿を見てきて、子どもたちの前で話すときの声の大きさや話すスピード、表情、ことばの選びかたなど、2年半が経つ今でも、本当に学びことばかりです。

今後、あそびはもちろん、絵本や手あそびを通して、子どもたちの成長につながるためには…子どもたちにとって魅力的な人になるには…と日々考え、研究しながら、進んでいきたいと思ひます。



『新入職員コメント』
児童発達支援センターあゆみ学園

保育士 谷久 詠美

あゆみ学園に就職して、半年が過ぎようとしています。毎日、新しいことがいっぱい多くを学ぶ日々です。まだまだ未熟で分からないこともありますが、職員の方から多くのことを吸収していき、現場で実践していきたいと思ひます。

学生の頃にボランティアで関わった子ども達も心も身体も大きく成長し、現在一緒に園生活が送れていることにも嬉しく思ひます。一人ひとりの個性を理解し、関わっていくことが出来るように、多くのことを経験し、学びを深めていきたいと思ひます。これから毎日一日を大切に過ごし、子ども達と一緒に成長していきたいです。よろしくお願ひします。

『ひとりの子どもたち』
児童発達支援事業とひとりの

保育士 矢野 愛実

あゆみ学園に来て、早3年が経とうとしています。1年目は、センターで初めての療育に関わりました。そして2年目からは、どんぐりでセンターとは違う生活が始まりました。

今年のだんぐりは、約50人。元気いっぱい、笑顔いっぱいの子もたちが利用してくださっており、毎日年齢の違う様々な子どもたちと関わることが出来るのだんぐりならではの感じています。

1番小さな2歳、3歳の子もたち。はじめましてのときは、お母さんと離れられず泣く子がたくさんいました。週に1回、2回と少ない回数を重ねることで園での生活にも慣れ、笑顔でハイバイ出来るようになったり、楽しめる活動が増えたり、たくさん笑顔が見られるようになりました。初めての運動会では、入場行進



やかけっこ、家族と離れて不安の中、最後まで元気いっぱい頑張りました。

年少さんは、去年から来てくれている子どもたくさん。幼稚園や保育園にも行き始める子ども増え、おしゃべりが上手になったり、苦手な物も頑張って食べられる

ようになったり、たくさんのことを吸収し、去年とは違った姿を見せてくれます。

年中さんは、仲良しのお友達も出来てみんなで遊んだりお話ししたりと楽しそうに過ごすが増えました。活動を繰り返すことで、苦手だったハサミやお絵描きなどにも頑張る挑戦することも多くなっています。

年下のお友達を引っ張ってくれる頼もしい年長さん。お当番活動も毎回張り切ってしてくれています。制作や感触あそびが大好きでみんなの発想力、想像力にはいつも驚かされています。

子どもたちにとって楽しく、安心出来るような場所になるよう、これからも子どもたちと一緒に成長していきたいと思ひます。

『餅は餅屋』
あゆみ学園指定相談支援事業所

相談支援専門員 梶原 佳代

1年に1度発行のこの学園報。ついこの何を書こうかな・・・と悩んで原稿を書き上げた気がするのに、もう今年の学園報の時期がやってきて、1年経つのはホント早いものだと思ひしております。

私が相談支援事業に携わるようになり、計8年となりました。1年目・2年目・・・と、こまかく思ひおこせば濃い8年なのですが、この8年もあつという間の8年でした。

国の動きの中で、相談事業も少しずつ変わった点はありませんが、現在は、主に障がい児・者さんが、福祉サービスを利用するために必要な「サービス等

利用計画」の作成及びそれに関わる相談等に携わらせていただいております。ことばや発達・特性・手帳・就学先・余暇・高校卒業後・就職・住まいの場・介護保険・将来について……相談内容も年齢に応じて、個人個人に応じて様々です。

以前、受けた研修会で印象に残っているのが、「相談支援専門員はスペシャリストではない!!餅は餅屋」という言葉でした。相談内容が多岐にわたるため、様々なことを知っていないといけないと思うものの、ことばや発達・特性・手帳……とそれぞれを専門とした方が地域にはたくさんいらっしゃいます。相談を受けた時、自分が何とかしなくては……と頑張ることも大事ですが、受けた相談内容をきちんと整理し、「その内容であれば〇〇さんに相談しよう」と、それぞれの内容に応じて頼れる先があることが大事だと感じています。行政・福祉・教育・医療・地域の方……等、たくさんの方に力をかけてもらい、助けてもらった8年だったと思います。

これからも、地域の方のお力を借りながら、障害児・者その家族さんたちが、地域で安心して暮らせる毎日をお手伝いできたらと思っています。

『 チームワークの良さが自慢です。 』

小規模保育事業所ひかり

主任保育士 四元 晶子

小規模ひかりとあゆみ保育園は、十月に東雲学園の体育館をお借りして運動会を開催しました。園児の数は39人ですが、当日は職員・ボランティアの方



を含め総勢二百人近くの方が参加しました。子どもたちが実際に広い体育館を使えるのは本番だけです。

それでも、日頃の練習の成果を発揮して、保護者と一緒に、競技やダンスを楽しんでもらうことが出来ました。兄弟やおじいちゃんおばあちゃん参加の競技、子どもたちの作品や年間写真のパネル展示、歌やハンドベルの演奏披露など、発表会のような要素もあるので準備はなかなか大変です。

通しのリハーサルもしていないので当日はいろいろなハプニングも起こりますが、そこは、園児、職員、保護者のチームワークで乗り越えています。忙しい毎日ですが、たくさんの人に支えられていることに感謝しながら、これからも職員一同、力を合わせて頑張っていきます。

『 新しい発見を求めて…… 』
多機能型事業所あゆみ 生活介護事業

主任支援員 谷口 篤

生活介護事業所は現在26名の方々にご利用頂いております。生産活動では、利用者の皆さんのペーパースで取り組んで頂けるよう、箱折りや自動車部品のゴムのバリ取り、空き缶つぶしの三種の作業に絞り実施しております。また、その他の活動としては、入浴や調理・音楽等の創作活動、外出、運動、プールの他に今年度から新たに園芸活動を設け、更に楽しんで頂ける活動を目指して実施しております。その園芸活動では、少人数で取り組んでいるという事と外での活動という事で開放感もあり、何かウキウキとした様子が見られたり、利用者間で助け合ったり、咲いた花を見て「きれいだね」と言ったりする等、今までとは違う姿も見られました。また、今の時期は花の植え替え時期でもあり、それぞれの花、野菜等の種採りをしたり、花壇の作り直しをしたりしました。その中で利用者さんから「コスモスの種取りは私があります。」と自発的な言葉が聞かれたり、花壇の形について悩んでいると「花壇はハートが良い」と自分の考えを言ったり等、参加して下さいている方から自発的な言動が見られると次はどんな風にしようかな?」
どのようにならもっと楽しめるかな?等と楽しい時間を過ごさせて頂いております。
これからも一緒に色々な活動をしていくので、楽しみましょう。



『みんながってみんないい』
多機能型事業所あゆみ 就労継続支援B型事業

職業指導員 丸山 和也

突然ですが、ぼくの趣味は、長い距離をランニングすること、献血に行くこと、ボランティアに参加すること、サウナに入ること、シールを集めること、車中泊すること、黄緑色の物を集めることです。…ざっと例を挙げてみましたが…、どうですか？変でしょ…？そうです、わたしは変なおじさんなんです(笑)

学生時代も、成人してからも、それなりに社会生活を送ってはきましたが、いつも周りの人とは感覚や意見が違つ…。どのグループに所属していても何となく浮いている感じがする…。そう感じる事が幾度となくありました。足並みを揃えることを良しとした日本の教育を受け続けてきたせいもあって、若い頃は、みんなと感覚がずれていること、どのグループに所属していても完全に馴染めないでいることを、真剣に悩んでいた時期もありました。高校の時に参加させてもらった障がい者入所施設での体験宿泊をきっかけに、大学では手話・ボランティアサークルに所属して、ボランティア活動漬けの大学生活を送っていました。

そんな縁で、当初の人生計画とは少々違つかたちになりましたが、気付けば福祉業界に足を踏み入れていました。紆余曲折あり、いくつかの事業所で臨時職員などとして勤務させていただきました。一時期福祉業界から離れたりもしましたが、気付けば福祉業界での経験も数年になりました。そして、これはどの事業所でも言えることですが、利用者のみなさんは

、実に個性的な方々が多い！ 好みもこだわりも一人一人まるで違います。そんな個性の塊のようなみなさんと毎日接していると、『ぶつう』とか『あたりまえ』とか、自分が脳内で勝手に決めつけている基準・線引きなど簡単に打ち崩されてしまいます。そしてもう、自分自身が『ぶつう』から逸脱していることに悩んでいることが、とてもあほらしく思えてきます。

『みんながってみんないい』というフレーズは、弱冠26歳の若さで亡くなった童謡詩人の金子みすゞさんが書かれた詩の一節で、言葉がシンプルですが、解釈は人それぞれで捉え方は微妙に違うと思いますが、ぼくかなりの解釈としては、『自分自身を含めた個人個人の違いを受け入れ、多様な感性に触れられることをむしろ楽しむ』といったところでしょうか…。みんなそれぞれ『ぶつう』の基準が違うのですから、この世に『あたりまえ』などというものはないに等しいのです。

より長い距離をより速く走る事ができる丈夫な体を作るために、体の柔軟体操に日々励みながら、思考回路の柔軟体操も欠かさずがんばっている今日この頃です。



あゆみ学園
父母の会 役員紹介

◎ 稲本 千恵

小集団からお世話になり、早五年。役員までさせていただき、会長としては至らないことばかりでしたが、多くの方が支えてくださり、進めていくことができました。

◎ 森 由美

今年度、副会長を務めさせて頂いております。先生方や保護者の皆様とのつながりを大切に、子供達とともに成長していけたらと思います。よろしくお願い致します。

◎ 松本 奈々

今年度、副会長を務めさせて頂いております。園生活も三年目。子供達の成長をたくさん感じる事ができる日々です。少しでも恩返しができるよう悔いのないように努めさせて頂きます。

◎ 二宮 理恵

初めての役員で、不慣れではありますが皆様のご協力を頂きながら、圓行事を盛り上げていけたらと思います。精一杯頑張りますので、よろしくお願い致します。

◎ 岡田 光恵

書記をさせて頂いております。先生方への感謝と、保護者の皆様との縁を深め、子供たちの笑顔に繋がっていただろうと思っておりますのでよろしくお願い致します。

◎ 岡本 正世

今年度、監査をさせて頂いています。子供らしい園での生活を楽しく過ごせるよう、残りの任期も精一杯努めさせて頂きます。よろしくお願い致します。



多機能型事業所あゆみ
家族会 役員紹介

◎ 角田 三記子

昨年に続き会長を務めさせて頂いております。少しでもお役に立てるよう、頑張ります。よろしくお願い致します。

◎ 川崎 佳子

任期もあと少しになりました。今年度も皆さまに助けていただき勤めさせて頂きたいと思っています。よろしくお願い致します。

◎ 藤崎 貞親

今年度で二年目の役員をさせて頂いております。色々と経験を積ませていただいております。ありがとうございます。

◎ 橘 順子

昨年に引き続き役員をさせて頂いております。役員一同、協力しあって楽しく笑顔で活動していきたいと思っておりますので、ご協力をお願い致します。

◎ 奥裕 裕子

未熟な私ですが、役員をさせて頂いております。色々と教わりながら、皆様のお力になれば…と思います。どうぞ、よろしくお願いします。

社会福祉法人あゆみ学園について

あゆみ学園が、松山教会の一隅で誕生したのは、1960年です。そして、現在は松山市の総合公園の駐車場の一部になった、南クリーンセンターに向かう重信側の土手下に、基準ぎりぎりの木造園舎で社会福祉法人になったのが1969年です。

今年と来年は、それから60年、50年という大きな節目の時期にあたります。小さな種を撒いた人、それを育ててくださった方々に感謝し、手渡されたバトンをきちんと次の世代に託す事ができるよう、保護者のみなさまとともにこの学園を守っていききたいと思っております。



新任職員 (平成31年4月現在)

保育士	保育士	保育士
川口琴乃	家藤莉沙	谷久詠美
	・	・
	大島千恵	橋本沙紀

お知らせ

・平成30年度の苦情受付に関して各事業とも受付件数0件。処理件数0件でした。

・決算書類、事業案内は、社会福祉法人あゆみ学園ホームページに掲載しております。

〒790-0047 松山市余戸南6丁目6番9号
社会福祉法人あゆみ学園
 児童発達支援センターあゆみ学園
 児童発達支援事業どんぐり
 相談支援事業所くじら
 ayumi-g@bz01.plala.or.jp
 HP TEL 089-972-0999 Fax 089-972-3511

〒790-0047 松山市余戸南6丁目3番26号
多機能型事業所あゆみ
 生活介護事業所あゆみ
 就労継続支援B型事業所あゆみ
あゆみ学園指定相談支援事業所
 ayumi-s@ksn.biglobe.ne.jp
 TEL 089-974-5141 Fax 089-907-6100

〒790-0912 松山市畑寺町843番地1号
多機能保育事業所あゆみ
 小規模保育事業所ひかり
企業主導型保育事業所あゆみ保育園
 TEL 089-948-4402 Fax 089-977-4412